

市民の健康・検診、文化芸術振興、校庭、園庭の芝生化、集合住宅による生活ビジネスを問う

公明党 鯨井 眞佐子



市民の健康について

市民の健康について 市民の皆様の健康と命を守るために、男性特有のがんである前立腺がんの定期的な検診が必要と考えるが、市として取り組んではいかがでしょうか。

市長 前立腺がんは、近年最も増加しているがんの1つとして注目されています。市としても、50歳以上を対象として、腫瘍マーカーの採血による検査を実施することを検討中です。

文化芸術振興について

文化芸術振興について 八街駅北口駅前広場は、昨年ほぼ完成したが、活用はされていない。北口駅前を利用して、さまざまなイベントを企画して、街を盛り上げる施策を行うべきと考えるが如何か。

市長 今後、市民団体の行事や市民と協働しての活用な

ど、この場所の有効活用が図れるようなイベントなどについて、どのようなものの実施が可能かどうか、幅広い視点から検討していきたいと考えています。

校庭・園庭の芝生化

校庭・園庭の芝生化を 施工費用や維持管理費も低コストの鳥取方式による芝生化を望むが如何か。

教育長職務代理者 定期的な刈り取り、水やり等の管理面における学校の負担や、芝生化の効果などを勘案しながら、今後の研究課題とさせていただきます。

集合住宅ビジネスについて

集合住宅ビジネスについて 最近、各社の新間、テレビ等マスコミに取り上げられている集合住宅による生活ビジネスだが、経済不況下のもと年々増加の傾向にある。千葉市においても

住民の訴えにより、裁判になり、マスコミにも取り上げられた。そこで、市としての基準は設けられないのか伺う。

市長 無料低額宿泊所の開設にあたり、現段階では市独自の要綱などが定められていませんが、施設利用料金が入所者1人あたりの専有面積や施設設備等に関係なく、生活保護費の住宅扶助基準額に設定されているのがほとんどであり、税で賄われている生活保護費が、一部の宿泊所事業者の利益につながるという結果を招いていると言っても過言ではなく、これが新たな施設開設を誘発し、近隣住宅との摩擦を生じる起因となることも懸念されます。今後は、近隣市町村とも連携を図り、規制強化を踏まえた県のガイドラインの見直しを求めていくとともに、市独自のガイドライン策定に向けた検討をしていきたいと考えています。

子ども手当創設、健康都市連合、榎戸駅周辺整備、「やさいの街」で街おこしの提案

公明党 川上 雄次



子ども手当創設について

子ども手当創設について 新政権の増税を伴う「子ども手当」の創設に伴い、配偶者控除、扶養控除が廃止された場合の市民の所得税の増税額について伺う。

市長 例えば、夫婦、小学生1人、保育園児1人の4人世帯で、給与収入が300万円、社会保険料控除が30万円の場合では、現行制度での所得税は5千円ですが、控除廃止での所得税は6万2千円となり、5万7千円の負担増となります。同じ世帯で給与収入が500万円の場合、現行制度での所得税は8万2千円、控除が廃止されずと所得税は18万5000円となり、9万8千5000円の負担増となります。

健康都市連合について 後、全国で26市が加盟している世界的ネットワーク「健康都市連合」にも加盟したが、その活動状況について伺う。

市長 健康都市連合日本支部は、WHO健康都市に関する情報の提供、WHO健康都市連合に賛同する都市等のネットワークを構築することにより、国内の地域特性に応じたWHO健康都市の実現に寄与することを目的とした組織です。八街市は、平成18年3月から会員として加盟しています。年に一度、健康都市連合日本支部大会が開催され、八街市も参加しており、幅広い情報の交換や共有を行っているところです。

榎戸駅周辺整備について

榎戸駅周辺整備について すぐに取り組める課題として、榎戸駅利用の歩行者の夜間の安全を確保するため、現在、全国の公園、駅、コンビニなどの景観照明

LED灯の設置については、通常防犯灯に比べ、明るさが増し、電気料金の軽減策につながると言われていますので、この地域で検証してみたいと考えています。

市長

「街おこし」策として「やさいの街」

「街おこし」策として「やさいの街」をキーワードに、例えば、四季別の収穫祭や品評会、野菜即売会などを八街駅北口駅前の市有地を会場に開催しては如何か。

市長 「J A いんば」が、農作物のできればえや規格区分を確認するため、4月から10月にかけて作物別に実施している「査定会」に合わせて、試食会や即売会などができないか、協議をしていきたいと考えています。

健康都市連合について

健康都市連合について 本市は平成16年6月に健康安全都市宣言をしており、その